

平成24年度学校自己評価システムシート (県立羽生実業高等学校)

目指す学校像	社会に有為な産業人を育成する
--------	----------------

重点目標	1 学力の定着向上と進路の実現 2 商業・農業の特色を生かした地域に開かれた学校づくりの推進 3 高校生活を充実させるための生徒指導の強化
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 5 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	生徒の進路希望は多様でその学力幅は大きい。一方、生徒・保護者の就職や進学をはじめとする進路実現に対する期待は大きい。今後は、より一層、分かる授業の推進により、生徒の学力を定着向上させ、進路希望を実現することが求められている。(進路決定 100%の実現)	①分かる授業の推進 ②一人一人の進路希望を実現する進路指導の充実	①学力の向上に係る職員研修会の実施 ②基礎学力定着対策の実施 ③校内授業公開の実施 ④生徒による授業評価の実施 ①進路面接指導の実施 ②保護者進路説明会の実施 ③求人数増加のための企業訪問の実施 ④就農者育成指導の実施	①職員研修会の実施 ②対策の立案 ③授業研究会の実施 ④授業評価の実施 ①年間3回以上の実施 ②年間3回以上の実施 ③年間2回以上の実施 ④指導プログラムの策定	・進路決定の実現については、保護者説明会の実施や面接機会の増加などにより、就職 93.3%、進学 100%を達成した。(2/5 班) ・分かる授業の推進については、11月にベネッセによる職員研修会を実施した。 ・教員同士で授業を公開し観察シートを提出したり生徒の授業評価を実施し、指導方法の改善に取り組んだ。	B	・分かる授業の一層の推進のため、生徒の学力定着度について、学校全体での新たな把握が必要である。また、教材の工夫や分かる所に立ち戻る指導などより、一層授業力向上を図る必要がある。 ・増加傾向にある就職希望者に対応した企業開拓や就職希望者への事前指導の充実が必要である。
2	創立 93 年を迎え商業と農業を併設する伝統校として、地域に根ざした教育活動を展開してきた。今後は少子化の中、中学生(小学生)、保護者、地域に対し、本校の特色ある教育活動への理解を深めるとともに、地域から信頼される学校づくりをより一層推進していくことが求められている。(募集定員の確保)	①商業・農業による地域関係機関との連携事業の実施 ②地域への魅力ある教育活動の発信	①羽生市・合同出前授業と中学生キャリア教育支援事業の実施(加須行田市) ②実践的職業教育推進プロジェクト事業(生産力・販売力の育成)の実施 ③長期休業等における商業農業等の公開講座の実施 ①地域への授業公開の実施 ②学校説明会の工夫改善 ③羽実だよりの発行、学校HP内容の充実 ④家庭地域と連携した防災体制の強化	①羽生市3中学校、加須行田市で3回実施 ②外部連携事業の実施 ③商業・農業の合計で計12以上の公開講座の実施 ①授業公開年2回の実施 ②年5回の工夫改善実施 ③年4回の発行、HPの年150回以上の更新 ④防災マニュアルの改訂	・募集定員の確保については、学校説明会内容の工夫、出前授業の実施(計7回)、インターネットショップ「羽実まなびや」の取組を地域にPRするなど、その実現を目指している。 ・公開講座(計13回)を実施し、各講座とも参加者から好評だった。 ・防災マニュアルを改訂(6月)するとともに、現在緊急連絡体制の整備を進めている。	A	・募集定員の確保のため、学校説明会の時期や内容について、より一層改善を図る必要がある。 ・地域からの期待や関心が高いことから、今後も年間を通じ、公開講座を開催する必要がある。 ・県指定事業をはじめ、本校の教育活動を地域に対し、より周知していくための取組の工夫が必要である。
3	地域産業を支える人材育成に対する地域の期待は大きく、整容をはじめ生徒の行動は地域から評価されている。今後とも、規律ある態度と豊かな心の育成により、自ら将来の生き方を見つめることのできる生徒を育てることが求められている。(中途退学者前年比2割減少)	①規律ある態度と豊かな心の育成 ②自主性を養う特別活動の充実(HR活動、部活動等)	①「羽実生規律アップ努力目標」指導の徹底 ②インターンシップの実施 ③学校生活に関する調査を活用した面談の実施 ④生徒指導講演会の実施 ①学校農業クラブや部活動の充実 ②地域貢献活動の実施	①学校評価アンケートでの生徒教員の取組8割以上 ②新規事業所10以上での実施 ③年2回以上の実施 ④年5回以上の実施 ①表彰機会年5回以上の実施 ②年7回以上の参加	・1年生全員のインターンシップや整容指導等の継続指導により進路実現に向けた基礎づくりを強化した。その結果指導件数4割減を達成した。 ・規律指導の徹底については生徒約85%、教員約97%の取組が見られた。 ・「ゆるキャラさみっと in 羽生」を含み、年8回の地域貢献活動に参加できた。	A	・より一層生徒指導を強化し、学力向上と進路実現の基礎とすることが必要である。また、スクールカウンセラーの活用その他、より一層面談機会を増やし相談体制を確立する必要がある。 ・授業等による地域貢献活動の継続実施に加え、全校生徒による校外活動を見直す必要がある。

学校関係者評価
実施日 平成25年 2月 8日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 厳しい経済の中、特に就職内定率の高さは、評価できると思った。 ・ 企業側からは高校新卒者採用は魅力である。インターンシップを一層活用し、働く意義も学んでほしい。 ・ 今年度は「授業評価」に進展が見られた。先生方が熱心に取り組んでいる様子が感じられた。生徒の学力幅があると聞くと、是非この学力向上の取組を続けてほしい。 ・ 農業の専門高校として就農者増に努めてほしい。 ・ 「羽実まなびや」だけでなく、出前授業や公開講座を増加して実施したことは素晴らしい。小学生からも分かりやすいと評判だった。 ・ 高校選びには、保護者の意向も大きく反映される。中学生の保護者が参加しやすくするため、多くの説明会を開催してほしい。 ・ 募集定員の確保について、学校の魅力をさらに中学生・保護者・地域に周知する取組が必要である。 ・ 月ごとの重点目標を決め生徒を指導するとともに、地域に周知することが必要である。 ・ まず豊かな心、次に規律ある態度、その上に進路実現となる。あらゆる場面で、地域に沢山いる卒業生の力を活用したらどうか。クラス単位でも協力できるし、より効果的になると思っている。 ・ 生徒は叱ってもらおうと実は嬉しいもの。ダメなものはダメと上手に叱り生徒を健全に育ててほしい。